

建交労フェスタまであと1カ月 5月25日までに参加登録を

あと1か月後に迫った「建交労フェスタ in 北海道」（6月15～17日）を成功させるため、5月13日に第4回現地実行委員会を開いて全国の仲間を迎え入れる準備を意思統一しました。

道外からの参加者は5月10日現在で198人となり、道内では現地実行委員のほか美幌支部・旭川支部・旭川地域支部・釧路支部からの参加登録が30人を超えたところです。

参加登録の最終締め切りは5月25日となっていますので、各支部は参加者を確定し次第、道本部に報告してください。

学習教育運動セミナーに建交労から7人

5月12～13日、「2018 学習教育運動セミナー in 札幌」が開かれ各単産などから54人が参加しました。建交労からは札幌・函館・旭川・十勝の若手メンバー7人が参加し、函館学習協の運営委員でもある道本部青年部長の鈴木さんが特別報告をしました。2つの講演のあとには若手2班とベテラン1班に分かれてグループ討論があり、建交労の参加者も他の労働組合の参加者と交流を深めました。以下は鈴木互道本部青年部長の感想（抜粋）です。

1日目の講演は労働者教育協会の山田敬男会長の「人間らしく働き、生きるために！学ぶことの大切さ」で、いま学習教育運動にとって大切な5つの問題が話されました。函館での活動にすぐ活かせる部分と課題となる部分はありますが、独自にやれる分野については挑戦していきたいと思いました。2日目は原富悟さんが「学習を力に、労働組合運動の活動力アップ」について講演し、体験を伝えることで学習が深まる大事さを教えてくださいました。知るよりも考える力を身につけるべきだということを再度確認しました。

新・北海道石炭じん肺訴訟 8人が国と和解

5月11日、新・北海道石炭じん肺訴訟第5陣の原告8人の国との和解が成立しました。これで第5陣原告137人のうち和解したのは74人となりました。

北の鉄路を守る訴えも すべての争議解決「1の日」行動

5月11日、札幌駅南口で「すべての争議解決1の日行動」がおこなわれ50人が参加しました。悪天候などで3月と4月は中止となったため3か月ぶりの「1の日」行動では、最初に新たに主催団体となった北海道公務共闘を代表して北海道国公の木村事務局長が「ゆがめられた行政を正すととりくみとともに争議をたたかう仲間のためにがんばる」と決意を述べました。福祉保育労の明啓院分会・つばさ分会の報告と、来年3月に判決を迎える新人看護師の過労自死の労災不支給取消裁判への医労連からの支援の訴えのあと、「北の鉄路存続を求める会」の小室さんから道民署名のとりくみ推進について特別報告がありました。